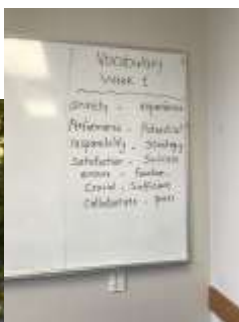


熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	A さん		
所属	_____ 法 _____ 学部・大学院 _____ 法 _____ 学科・専攻		
留学先機関名	マッセー大学 (国名：ニュージーランド)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	H30 年 3 月 2 日ー H30 年 3 月 25 日	留学開始 時学年	_____ 2 _____ 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 _____ 期】 ☐ その他 (_____)		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	留学経験のある知人から情報をえる。 英会話の本で日常会話の練習をする。 生活の中で使いそうな英単語を覚える。		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	☒ プログラム費用 263,960 円 ☐ 宿泊費用(寮/ホームステイ等) 円 ☐ ビザ申請 円 ☒ 渡航費(往復) 158,520 円 ☒ 海外旅行保険料 19,070 円 ☒ 食費 約 20,000 円 ☒ その他(観光、お土産など) 約 30,000 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	全日空、エアニュージ ランド	手配	HIS ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本-福岡、福岡-東京、東京 -オークランド、オークラン ド-パーマストンノース	到着 時刻	13:30 【※移動時間(約 31 時間)】
大学(寮)への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関(☐ バス ☐ 電車) ☐ その他 ()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等			
宿泊先	☐ 寮 ☒ ホームステイ その他()	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他()
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他()	ルーム メイト	☐ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	キャッシュレスな国であるため、クレジットカードを持っておく と便利。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	平日 午前中 英語の授業 約3時間 午後 文化の授業や体育の時間 1時間 一日はみんなでビーチに行き昼食、金曜日はフリー 週末 フリー
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	日本人スタッフが、時間があるときは着いてくれたり、ホストファミリーや授業に問題がないか毎日尋ねてくれるなど、とても親切で安心できた。LINE で連絡が取れるので安心。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	大学のサーバーにアクセスする時間を取ってくれたが、日本に在る間に設定ができる。学生証の申請も日本に在るうちに行った。大学の Wi-Fi は初日に教えてもらえた。
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	週末はホストファミリーと市街地で行われるルーラルゲームやカルチャーフェスティバルなどのイベントや、近くの公園に出かけた。 ある週末はホストファミリーがウェリントンでの用事があったため、車に乗せてもらい、その用事の間友人とウェリントンでの観光を楽しめた。 金曜日の午後は友人と市街を散策した。学校の友人やホストファミリーにオススメのお店やお土産などを聞いて、そこを巡った。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

想像していたよりも自分の英語が通用し、自信を持てた。自分が何かを伝えようとする限り、ホストファミリーや学校の先生は理解しようという姿勢を見せてくれるから、考えを整理してから伝えるよう心がければスムーズに意思疎通できた。疑問や不安なことはすぐにホストファミリーに尋ねるようにし、それも一つの会話のきっかけにして、なるべく長い時間会話を続けると、その分打ち解けられると感じた。

ニュージーランドではホストファミリーも午後5時には仕事から帰ってきて、みんなで夕食の準備をし、食事の後は映画を観るなど、非常に家族団欒を大切にしていた。

またニュージーランドは男女平等の社会であり、男性も当たり前家事・育児を行い、仕事も家事も平等に分担しているところが日本よりも進んでいると感じた。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

マッセー大学は非常に国籍が豊かで、現地の学生はもちろん、日本を含めたアジア系の学生も多く、熊本大学以外の多くの学生ともコミュニケーションを取れる。英語の授業は、出発前に日本で受けるテストの結果に合わせてクラス分けがされるため、自分の能力に合ったレベルの内容を受けることができる。2コマある英語の授業は、リーディングとスピーキング・リスニングがあり、それぞれ110分と長いですが、間にモーニングティーといった20分ほどの休み時間があるため切り替えられる。キャンパスが広く、移動は大変だが、常に綺麗に保たれており開放感がある。誰でも電子レンジやお湯が使える食堂が複数あるためランチの際は便利。

生活面では、ホストファミリーみんなが遅くとも23時までには布団に入るのでシャワーやその後のドライヤーなど音のするものは早めにと心がけると良い。シャワーの時間が15分までと決められているため工夫が必要。寒暖差が大きく朝晩は冷え込むため、就寝時は暖かい格好が良い。朝から日差しが非常に強いため対策は必須。

留学を通しての感想

出発前1ヶ月くらいからホストファミリーとメールのやり取りをしていたためか、あまり不安を感じることなく、ホームステイを迎えられた。私の英語を褒めてくれたり、英語の課題を一緒に考えてくれたり、私も疑問や不安なことはすぐ相談することで、うまくホストファミリーとの距離を縮められたと思う。生活の中で一番強く感じた文化の違いは、労働環境においてで、家族団欒を大切にするため16時には多くの店が閉まり、夕食をみんなで準備して食後には映画を観るという毎日の流れがあった。また、男女平等が進んでおり、男女が同じ程度の家事を当たり前にしていて、良い文化だと感じた。穏やかな性格の方が多いのか、治安も良く時間の流れがゆっくりと感じ、落ち着いた生活を送れた。

授業は、内容がアカデミックで難解なこともあったが、意思疎通などに困ることはなく、有意義なものにできたと思う。決められた時間の中で長文を読んで問いに答える受験英語の延長もあったが、国籍も年齢も異なる他の学生とある議題について話し合うという時間が多かったため、たくさん英語でコミュニケーションができ、非常に良い経験となった。この留学を通して、自分の英語とコミュニケーション能力に自信を持てたのと、また異なる文化のもとで生活してみたい気持ちが生まれた。整った環境で非常に有意義な時間を過ごせたと思う。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	B さん		
所属	____ 教育 ____ 学部・大学院 ____ 中学校教員養成課程 ____ 学科・専攻		
留学先機関名	マッセー大学 (国名：ニュージーランド)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	H30 年 3 月 4 日－ H30 年 3 月 22 日	留学開始 時学年	__ 2 __ 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 ____ 期】 ☐ その他 ()		



写真貼付

1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	海外映画を英語音声（英語字幕付き）で鑑賞 文法書やその他の書籍を用いての学習		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用（おおよ その費用）	☒ プログラム費用 180,000 円 ☒ 宿泊費用（寮／ホームステイ等） 84,000 円 ☐ ビザ申請 0 円 ☒ 渡航費（ ☐ 片道 ☒ 往復） 160,820 円 ☒ 海外旅行保険料 19,070 円 ☒ 食費 40,000 円 ☐ その他 () 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	ANA ニュージーランド航空	手配	株式会社エイチ・アイ・エス ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	福岡→成田→オークランド →パーマストンノース	到着 時刻	15 : 30 【※移動時間（約 26 時間）】
大学（寮）への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関（ ☐ バス ☐ 電車） ☐ その他 ()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	パーマストンノース空港にて大学職員とホストファミリーと合流 ホストファミリーの車で滞在先へ移動		
宿泊先	☐ 寮 ☒ ホームステイ その他()	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他()
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他()	ルーム メイト	☐ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他(ルームメイトなし)
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	留学先の大学とホームステイ先の家庭では常に Wi-Fi が使える が、外出時はレンタルのモバイル Wi-Fi があると便利。 買い物の支払いに関しては、現金もクレジットカードも扱ってい る店がほとんど。まれにどちらかしか扱っていない店もある。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	午前は英語の授業が 90 分×2 コマ。前半はリーディングとライティング、後半はリスニングとスピーキングがメイン。1 週間ごとに「教育」や「環境」などといったテーマが決まっている。週に 1 回、単語テストがある。メールや大学のサイトから提出する課題が出ることもある。 午後はニュージーランドの文化の授業が 60 分間。ニュージーランドの歴史、人々の暮らし、マオリの言葉などを学ぶ。プログラムの終盤に一人 1 回、自由なテーマで 5 分程度のプレゼンテーションをする。 週に 1 回、大学職員と車で遠出して観光したり、小学校を訪問して子どもと関わったり、大学の日本語の授業に参加して日本語を学習している学生と話したりするなどの活動もある。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	日本のスタッフや日本語が話せるスタッフがこまめに情報を提供してくれたり、キャンパス内の施設や町を案内してくれたりするなどの手厚いサポートがあった。大学の体育館でスポーツができるように準備してくれたり、週末の小旅行のアドバイスをしてくれたりもして充実していた。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	学生証はプログラム開始前に申請していたため、開始後は特に手続きはなく、授業初日の昼休みに学生証を受け取るだけだった。大学 ID と大学ポータルサイトへのアクセスについては、学生証を受け取った日にコンピューター室で確認する時間があった。今回は短期のプログラムだったため、履修登録の必要はなく、また、一部のシステムへのアクセスが制限されていた。
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	午後の授業が終わってからは観光案内所やマップを利用して行きたい場所を決め、パーマストンノース内の店や観光地を巡っていた。週末はホストファミリーと地元のイベントを訪れたり、高速バスで首都ウェリントンまで行き、都内を観光したりしていた。最後の週末には中国やフランスなどの他の国からの留学生も交えてスポーツを楽しんだ。帰国前日はオークランド内を観光してお土産を買って過ごした。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

ホストファミリーとの生活や留学先での授業を経験して、英語の口語の表現の幅が広がった。特に、ネイティブがふとしたときにこぼす言葉は日本の英語教材ではあまり扱われていないため、生活のなかで繰り返し耳にするうちに、どういったときにどのような意味で使っているのかわかるようになってきた。

また、私個人は中学校の英語科教員を目指しているため、日本語が一切通じない環境で英語の授業を受けるなかで、中学生に対してわかりやすく英語で英語の授業を行うためのヒントが得られたことや、初期段階の英語学習者が楽しみながら英語を学べるような教材を現地で見つけられたことが大きな収穫だった。

ニュージーランドにも日本のことに詳しい現地の住人や他国からの留学生がいるのに対し、自分は他国のことをあまりに知らなすぎることに気づいたため、海外の情報に対して敏感になろうと考えるようになった。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

- ・シャンプーや石けんについては Dove や NIVEA など日本でもなじみのある製品が現地でも何種類か販売されています。
- ・携帯電話のデータ通信については現地の SIM カードよりも海外用のモバイル Wi-Fi を使う人が多かったです。
- ・現地の人と連絡先を交換するならば、Facebook、Instagram、Gmail などのアカウントがあると便利です。
- ・週末に小旅行などをしてホテルで宿泊する場合、クレジットカードが必要になります。他にも、買い物や観光をしているとクレジットカードの必要性を感じることもたまにあるため、持っておくと困りません。
- ・大学のコンピューター室を使わせてもらえるため、ノートパソコンは持って行かなくてもそれほど差し支えありません。

留学を通しての感想

ニュージーランドでの初日は、空港でのホストファミリーの送迎から突然始まった英語だけの生活に戸惑うことが多かったが、数日過ごせばすぐに不安も薄らいだ。

ニュージーランドでは現地の住人も他国からの留学生も親切に接してくれたため、人付き合いは良好だった。ただし、たくさん知り合いをつくって英語で会話したいならば、自分から他人に積極的に声をかけて会話を続けようとしないと、その場限りの関係になってしまい、せっかく海外に来たのにもったいないと感じることも何度かあった。また、自分が海外で親切にされた今回の経験から、日本の大学に帰ってからは日本の大学に通う留学生にもっと親しく接したいと考えるようになった。

留学中に会った何人かの日本人と話をして、なぜ海外で生活しようと思ったのか聞いたところ、それぞれ目的や経緯が異なっていたが、やりたいことが明確に決まっている人たちの話を聞くことで良い刺激を受けた。ニュージーランドで生活をするなかで、言語や文化の学習だけでなく、良い出会いができたことを嬉しく思っている。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	C さん		
所属	____ 医 ____ 学部・大学院 ____ 保健 ____ 学科・専攻		
留学先機関名	マッセー大学 (国名：ニュージーランド)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	H31 年 3 月 2 日－H31 年 3 月 25 日	留学開始 時学年	____ 1 ____ 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ 国際奨学事業 ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 ____ 期】 ☐ その他 ()		

(枚数制限なし)

1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 () 語)		
勉強方法	初めてのホームステイという本を読み、簡単なフレーズなどは暗記していった。		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用 (おおよ その費用)	☒ プログラム費用 163960 円 ☒ 宿泊費用 (寮／ホームステイ等) 100000 円 ☐ ビザ申請 円 ☒ 渡航費 (☐ 片道 ☒ 往復) 170000 円 ☒ 海外旅行保険料 20000 円 ☒ 食費 20000 円 ☐ その他 () 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	ANA ニュージーランド航 空 JAL	手配	HIS ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	バス 飛行機	到着 時刻	16 時 【※移動時間 (約 15 時間)】
大学 (寮) への 移動手段	☐ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☒ 公共交通機関 (☒ バス ☐ 電車) ☐ その他 ()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	航空会社のターミナルナルの位置やバス乗り場の位置をあらかじめ調べておいた方が良い。		
宿泊先	☐ 寮 ☒ ホームステイ その他 ()	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他 ()
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他 ()	ルーム メイト	☐ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他 ()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	洗濯をあまりしない国であったため、着替えの下着などは多めに持っていった方が良い。飲み薬や絆創膏といったものも持っていった方が良い。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	主に授業は午前中に行われ、日本人以外の国の学生と一緒に授業を受けることができました。英語で簡単な会話をみんなとしたり、リスニングのポイントやプレゼンのポイントを教えてもらったり、英単語の意味を説明し、それがしっかりと理解できているかの単語テストをしたりと非常に充実していました。学校訪問をして現地の幼稚園の子と一緒に遊んだり、小学生の子と一緒に授業を受けたり、また日本語を勉強している留学生に日本語を教えたりする授業もあり大変充実した時間を過ごすことができました。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	困ったことがあればすぐに対応してもらえたので、特に大きな問題を抱えることもなく過ごすことができました。ただ、自分からしたいことややりたいことを言わないと教えてもらえないこともあったので、もう少し色々教えてもらいたかったです。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	私は特に問題なく行うことができました。
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	主にホストファミリーと一緒に行動しました。友達に wellington 旅行に誘われた時はホストファミリーに時間や宿泊先や旅行プランなどをあらかじめ伝え、許可を得てから行きました。友達と遊びに行く時も帰る時間などをあらかじめ伝えてから出かけるようにしました。最終日の授業終わりにクラスの人々と大学でテニスをしました。テニスをしたことがあるというのを知って、フランス人の子と仲良くなり、連絡先を交換したのがきっかけです。現地の学生と交流することができ非常に貴重な経験をすることができました。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

英語を話すのを上達するために、重要なことを現地の色々な人に教えてもらいました。英語を母国語とする人と話すことが一番大切であるということ、そして一週間に数回英語で映画を何度も見て勉強すること。日本人は単語や文法は他の国の人々よりも出来ているが話す英語があまり出来ていないことをクラスの授業を通して、客観的に見ることができました。英語というツールを用いて様々な国の人々と話すことができることを改めて知ることができ、もっと話す英語能力を伸ばしていきたい！と思うことができた語学研修でした。またニュージーランドの文化や生活を体験することができ、良い所や悪い所、日本と違った所などを知ることができたのも良かったです。帰りの飛行機で隣に座った人に、自分から英語で色々とお話をする事ができ、コミュニケーション能力が語学研修前よりも少しは上達したなと思いました。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

マッセー大学は非常に設備も整っており、先生も優しい方々ばかりでとても勉強しやすかったと思います。ただ、自分から積極的に話しに行くのと行かないのでは英語を話すという面で上達に差がでるのかもしれませんが。ニュージーランドの生活を経験することが出来るのはやはりホームステイが一番だと思います。英語の勉強は日本でもできますが、現地に行くと英語を使わないと通じないというがあるので、英語を勉強したいけど勉強してないという人に留学をオススメします。プログラムに関してはもう少しアクティビティを増やしてもらったともっと楽しく過ごすことが出来たと思いました。

留学を通しての感想

語学研修は今回で2回目なのですが、大事なことは英語を使い続けることだとホストファミリーの方に教えてもらいました。日本で生活しているとどうしても母国語である日本語を使ってしまっているので英語を使わなくなってしまう。この留学をきっかけにして英会話スクールに通ったり、自分で携帯のアプリ用いて英語の勉強する！と決めることができました。何より英語という語学を学ぶことの楽しさを知ることができました。アメリカに行った際に用いていた英語や発音をすると時々通じなかったり、その表現はアメリカ英語だよと教えてもらえたりしました。イギリス英語の文化であるニュージーランドではこのように言うのだと新たな発見もあり英語にもこのように違いがある事を知ることができ非常に有意義な時間を過ごすことができた語学研修でした。また他の国の友達も作ることができ、もっと英語を話せるようになろう！と思えた留学でもありました。

